

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年7月28日

【四半期会計期間】 第20期第3四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

【会社名】 株式会社サイバーエージェント

【英訳名】 Cyber Agent, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤田 晋

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区道玄坂一丁目12番1号

【電話番号】 (03)5459-0202(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 中山 豪

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区道玄坂一丁目12番1号

【電話番号】 (03)5459-0202(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 中山 豪

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第3四半期 連結累計期間	第20期 第3四半期 連結累計期間	第19期
会計期間	自 平成27年10月1日 至 平成28年6月30日	自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日	自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日
売上高 (百万円)	225,048	269,486	310,665
経常利益 (百万円)	31,800	19,404	35,341
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	12,294	3,009	13,612
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	14,683	9,091	18,476
純資産額 (百万円)	89,130	96,841	92,614
総資産額 (百万円)	136,889	148,812	156,597
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	97.88	23.93	108.36
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	97.50	23.82	107.91
自己資本比率 (%)	54.6	52.0	49.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	15,642	4,678	28,246
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	13,774	15,498	15,224
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	312	4,220	453
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	40,554	37,053	51,767

回次	第19期 第3四半期 連結会計期間	第20期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	8.24	3.02

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。このため、第19期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

平成29年3月末における一般世帯のスマートフォン普及率は69.7%（注1）まで拡大し、平成29年のスマートフォン広告市場は、前年比23.7%増の8,010億円（注2）と順調な成長が見込まれます。特に動画広告市場（PC含む）の急成長が予想され、平成29年には前年比39.9%増の1,178億円に拡大し、平成34年には2,918億円に達すると予測されております（注3）。

このような環境のもと、当社グループは、引き続きスマートフォン市場の成長を取り込む一方で、中長期の柱に育てるため、「AbemaTV」等の動画事業への先行投資を強化し、当第3四半期連結累計期間における売上高は269,486百万円（前年同期比19.7%増）、営業利益は20,888百万円（前年同期比35.9%減）、経常利益は19,404百万円（前年同期比39.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,009百万円（前年同期比75.5%減）となりました。

出所 （注1）内閣府経済社会総合研究所「消費動向調査（平成29年3月実施調査結果）」

（注2）D2C/サイバー・コミュニケーションズ「2016年インターネット広告市場規模推計調査」

（注3）当社/デジタルインファクト「国内動画広告の市場動向調査」

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しておりますので、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

メディア事業

メディア事業には、「AbemaTV」、「FRESH!」、「Ameba」等が属しております。

「AbemaTV」等の動画事業への先行投資により、売上高は18,810百万円（前年同期比16.2%増）、営業損益は14,423百万円の損失計上（前年同期間2,395百万円の損失計上）となりました。

ゲーム事業

ゲーム事業には、(株)Cygames、(株)サムザップ、(株)Craft Egg、(株)アプリボット、(株)ジークレスト等が属しております。

既存タイトルが堅調な中、新たなヒットを創出し、売上高は103,968百万円（前年同期比18.1%増）、営業損益は21,266百万円の利益計上（前年同期比11.7%減）となりました。

インターネット広告事業

インターネット広告事業には、インターネット広告事業本部、(株)CyberZ等が属しております。

スマートフォン向けのインフィード広告や動画広告の順調な販売等により、売上高は152,421百万円（前年同期比19.5%増）、営業損益は14,175百万円の利益計上（前年同期比21.1%増）となりました。

投資育成事業

投資育成事業にはコーポレートベンチャーキャピタル、(株)サイバーエージェント・ベンチャーズにおけるファンド運営等が属しており、売上高は1,756百万円（前年同期比161.9%増）、営業損益は694百万円の利益計上（前年同期間179百万円の損失計上）となりました。

その他事業

その他事業には、(株)シーエー・モバイル、(株)ウエディングパーク等が属しており、売上高は9,387百万円（前年同期比34.8%増）、営業損益は1,249百万円の利益計上（前年同期比66.2%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

（総資産）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は148,812百万円（前連結会計年度比7,784百万円の減少）となりました。これは、主に法人税等及び配当金の支払等に伴う現金及び預金の減少によるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債は51,971百万円（前連結会計年度比12,011百万円の減少）となりました。これは、主に法人税等の支払いに伴う未払法人税等の減少によるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は96,841百万円（前連結会計年度比4,226百万円の増加）となりました。これは、主に有価証券評価差額金及び非支配株主持分の増加によるものであります。

（自己資本比率）

当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は52.0%（前連結会計年度比2.7ポイント増）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べて14,714百万円減少し、37,053百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは4,678百万円の増加（前年同期間は15,642百万円の増加）となりました。これは、主に利益の計上及び法人税等の支払によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは15,498百万円の減少（前年同期間は13,774百万円の減少）となりました。これは、主に固定資産の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは4,220百万円の減少（前年同期間は312百万円の増加）となりました。これは、主に配当金の支払によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当社グループの研究開発活動は、ゲーム事業におけるコンソール機向けゲームコンテンツの開発であり、当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1,533百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	505,706,400
計	505,706,400

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年7月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	126,426,600	126,426,600	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	126,426,600	126,426,600	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年6月30日	-	126,426,600	-	7,203	-	2,289

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 692,316	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 125,725,500	1,257,255	権利内容に何らの限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 8,784	-	-
発行済株式総数	126,426,600	-	-
総株主の議決権	-	1,257,255	-

(注)「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の失念株式が27,800株含まれております。また「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数278個が含まれております。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) (株)サイバーエージェント	東京都渋谷区道玄坂 一丁目12番1号	692,316	-	692,316	0.55
計	-	692,316	-	692,316	0.55

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年10月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	51,774	37,055
受取手形及び売掛金	42,572	41,183
たな卸資産	192	359
営業投資有価証券	12,591	13,293
その他	7,703	10,253
貸倒引当金	187	227
流動資産合計	114,647	101,917
固定資産		
有形固定資産	8,633	8,713
無形固定資産		
のれん	1,821	1,707
その他	18,607	22,524
無形固定資産合計	20,429	24,232
投資その他の資産		
その他	13,394	14,606
貸倒引当金	506	656
投資その他の資産合計	12,888	13,949
固定資産合計	41,950	46,895
資産合計	156,597	148,812
負債の部		
流動負債		
買掛金	27,601	29,581
短期借入金	854	945
未払法人税等	11,169	2,203
その他	22,512	16,975
流動負債合計	62,137	49,705
固定負債		
長期借入金	91	169
勤続慰労引当金	762	972
資産除去債務	890	968
その他	101	155
固定負債合計	1,845	2,265
負債合計	63,983	51,971
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,203	7,203
資本剰余金	4,780	4,799
利益剰余金	63,573	62,602
自己株式	765	732
株主資本合計	74,791	73,872
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,440	3,380
為替換算調整勘定	91	100
その他の包括利益累計額合計	2,348	3,481
新株予約権	516	708
非支配株主持分	14,957	18,778
純資産合計	92,614	96,841
負債純資産合計	156,597	148,812

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
売上高	225,048	269,486
売上原価	141,944	181,300
売上総利益	83,104	88,185
販売費及び一般管理費	50,534	67,297
営業利益	32,569	20,888
営業外収益		
受取利息	8	10
受取配当金	100	104
為替差益	-	123
その他	87	83
営業外収益合計	196	322
営業外費用		
支払利息	8	11
持分法による投資損失	778	1,684
その他	179	111
営業外費用合計	966	1,806
経常利益	31,800	19,404
特別利益		
固定資産売却益	64	269
投資有価証券売却益	1,669	251
その他	42	55
特別利益合計	1,776	576
特別損失		
減損損失	3,840	1,164
その他	1,002	1,049
特別損失合計	4,843	2,213
税金等調整前四半期純利益	28,733	17,767
法人税、住民税及び事業税	11,822	10,089
法人税等調整額	831	40
法人税等合計	12,653	10,049
四半期純利益	16,079	7,717
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,784	4,708
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,294	3,009

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	16,079	7,717
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	548	943
為替換算調整勘定	694	358
持分法適用会社に対する持分相当額	153	72
その他の包括利益合計	1,396	1,374
四半期包括利益	14,683	9,091
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,243	4,143
非支配株主に係る四半期包括利益	3,439	4,948

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	28,733	17,767
減価償却費	4,851	6,131
減損損失	3,840	1,164
投資有価証券売却損益(は益)	1,305	255
売上債権の増減額(は増加)	1	1,460
営業投資有価証券の増減額(は増加)	684	462
仕入債務の増減額(は減少)	2,141	2,360
未払金の増減額(は減少)	2,193	4,470
未払消費税等の増減額(は減少)	540	944
その他	2,166	163
小計	32,725	23,513
利息及び配当金の受取額	149	107
利息の支払額	8	11
法人税等の支払額	17,223	18,930
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,642	4,678
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	2,069	2,184
無形固定資産の取得による支出	9,735	10,608
投資有価証券の売却による収入	1,788	134
投資有価証券の取得による支出	481	14
関係会社株式の取得による支出	922	474
貸付けによる支出	1,278	1,831
その他	1,075	519
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,774	15,498
財務活動によるキャッシュ・フロー		
子会社の自己株式の取得による支出	1,202	-
配当金の支払額	3,134	3,138
投資事業組合員への分配金の支払額	234	1,060
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	3,402	-
その他	1,481	21
財務活動によるキャッシュ・フロー	312	4,220
現金及び現金同等物に係る換算差額	333	270
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,847	14,769
現金及び現金同等物の期首残高	38,716	51,767
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	8	55
現金及び現金同等物の四半期末残高	40,554	37,053

【注記事項】

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)
現金及び預金勘定	40,561 百万円	37,055 百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	6 百万円	1 百万円
現金及び現金同等物	40,554 百万円	37,053 百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年10月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年12月11日 定時株主総会	普通株式	3,138	50	平成27年9月30日	平成27年12月14日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年12月16日 定時株主総会	普通株式	3,142	50	平成28年9月30日	平成28年12月19日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成27年10月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)	四半期連結損益 計算書計上額
	メディア	ゲーム	インター ネット広告	投資育成	その他	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	9,675	87,356	120,944	670	6,401	225,048	-	225,048
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	6,519	693	6,554	-	561	14,328	14,328	-
計	16,194	88,050	127,499	670	6,962	239,377	14,328	225,048
セグメント利益又は損失 ()	2,395	24,093	11,708	179	751	33,977	1,407	32,569

(注)セグメント利益の調整額 1,407百万円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディア」、「ゲーム」、「インターネット広告」、「その他」セグメントにおいて、一部サービスの収益性低下及びサービスの廃止等により当初想定していた収益及び費用削減が見込めなくなったため、減損損失として特別損失に計上しました。なお、当第3四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は下表のとおりであります。

メディア	40百万円
ゲーム	3,502百万円
インターネット広告	232百万円
その他	65百万円
合計	3,840百万円

(のれんの金額の重要な変動)

「企業結合に関する会計基準」等の改正に伴い、改正後の会計方針を遡及適用しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は下表のとおりであります。

ゲーム	524百万円
インターネット広告	94百万円
その他	2,499百万円
合計	3,119百万円

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成28年10月1日至平成29年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						調整額 (注)	四半期連結損益 計算書計上額
	メディア	ゲーム	インター ネット広告	投資育成	その他	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	13,804	103,557	141,918	1,756	8,449	269,486	-	269,486
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	5,005	411	10,503	-	937	16,857	16,857	-
計	18,810	103,968	152,421	1,756	9,387	286,343	16,857	269,486
セグメント利益又は損失 ()	14,423	21,266	14,175	694	1,249	22,961	2,073	20,888

(注)セグメント利益の調整額 2,073百万円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント区分の変更)

第1四半期連結会計期間より、インターネット広告事業の更なる成長・強化を目的とした組織再編・事業再編を行ったため、事業の実態に合わせ「その他事業」に属していた㈱シーエー・モバイルの広告関連事業を「インターネット広告事業」に移管しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディア」、「ゲーム」、「インターネット広告」、「その他」セグメントにおいて、一部サービスの収益性低下及びサービスの廃止等により当初想定していた収益及び費用削減が見込めなくなったため、減損損失として特別損失に計上しました。なお、当第3四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は下表のとおりであります。

メディア	45百万円
ゲーム	742百万円
インターネット広告	365百万円
その他	10百万円
合計	1,164百万円

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	97円88銭	23円93銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	12,294	3,009
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	12,294	3,009
普通株式の期中平均株式数(株)	125,609,980	125,724,425
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	97円50銭	23円82銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	477,743	595,689
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜 在株式で、前連結会計年度末から重要な変動が あったものの概要	-	-

(注)平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年7月27日

株式会社 サイバーエージェント
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小堀 一英 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 瀧野 恭司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サイバーエージェントの平成28年10月1日から平成29年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年10月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サイバーエージェント及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。